

平成27年度 佐賀市立嘉瀬小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと嘉瀬を愛し、青藍の心を高め、心豊かにたくましく生きる児童の育成	① 豊かな人間性を育む ② 生活習慣、読書習慣の定着 ③ 確かな学力の向上及び教職員の資質向上

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 豊かな人間性を育む

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	思いやりの気持ちを持って生活できているか。 子どもたちは元気で気持ちのよいあいさつができたか。	・保護者による評価において、「命を大切に、思いやりのある豊かな心の教育に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。 ・フリー参観デーのアンケートにおいて、「子どもたちのあいさつの様子はよい」の評価を90%以上にする。	・豊かな心育成部を中心に毎月人権教室を行い児童の人権意識を高める。 ・「心のアンケート」を通し、自分や友だちのよさを認める活動を行う。 ・フリー参観デーに「ふれあい道徳」を設定し、日頃の取り組みを保護者や地域に公開する。 ・あいさつ強化月間を設定し、学級ごとに目標を決めて取り組む。「(あいさつ)合い言葉や「かせっこ」合い言葉を定着させる」 ・全校で学級目標発表会を行い、集団への所属意識の高揚を図る。	A	・11月には、長崎県より端宝太鼓をよんで人権コンサートを行った。子どもたちは生きていることの意味を考えるとともにその演奏に心を打たれた。 ・保護者アンケートにおいて97%の保護者が「学校は、命を大切に、いじめがない、豊かな心を育てる教育の取組」を評価している。 ・11月の実践交流会に向け、校内研修でも人権・同和教育に力を入れ、心の教育に取り組んだ。 ・毎週水曜日の朝は、児童会が中心となり、全校児童が交代であいさつ運動に取り組んだ。 ・フリー参観デー保護者アンケートにおいて6月は92%、10月も90%の保護者が「家庭や地域であいさつを、よくしている・まあしている」と答えている。	・次年度も毎月の人権教室を充実させるとともに命の大切さについて考える講演会等の開催を検討していく。また、豊かな心を育むために本物に触れる機会を設ける。 ・全校児童でのあいさつ運動は続けるとともに、保護者にも呼びかけあいさつ運動を広げていきたい。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応ができたか。	・児童アンケートにおいて「友だちとなかよくできた」の評価を90%以上にする。	・毎月1日にいじめアンケートを実施し、児童の状況把握に努め、いじめの早期発見、早期対応に努める。	A	・本年度、2回のアンケートではいじめと認知した事案はなかった。1月に1件認知事案発生したがすぐに対応できた。 ・児童アンケートにおいて90%の児童が「友だちをいじめたり、差別したりしないで、仲良くすることが、よくできた・できた」と答えている。しかし、まだ不適切な言葉を使う児童もいる。	・次年度も毎月1日にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、不安を持つ児童に対する個別対応と組織的対応を充実させていく。
教育活動	○地域とともに発展する学校	地域連携を柱とした教育活動の実現と広報ができたか。 子どもたちはふるさとを誇りに思うことができたか。	・保護者による評価において、「地域連携教育に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。 ・児童アンケートにおいて地域への愛着の項目の評価を高める。	・生活科、総合的な学習および教科等の授業へゲストティーチャーを活用したり、地域人材を活用したりする。 ・新聞等への記事の投げ込み、学校だより、学年・学級便り、ホームページ等を活用し活動の様子を保護者や地域に発信する。 ・地域行事への積極的な参加を呼びかけたり、行事への児童の参画を促したりする。	A	・本校の特色である「地域連携教育」については、本年度も学校行事と地域行事の連携、学習活動への地域の方々の協力・支援など、学校・保護者・地域が密接に連携した教育活動がスムーズに実施できた。 ・保護者アンケートにおいて98%もの保護者が「学校は、地域と共に発展する学校づくりをめざした学校運営に、よく取り組んでいる・だいたい取り組んでいる」と答えている。 ・児童の活動の様子の発信は学校便り・学級便りでしっかり行ったが、充実したHPの活用を考えていく必要がある。	・さらに児童数・学級数減が進むので、地域と連携した活動の実施方法をカリキュラムレベルで見直しながら実施していく。 ・児童の地域への愛着を測るアンケートの工夫が必要である。

② 生活習慣、読書習慣の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○読書習慣の定着	子どもたちに望ましい読書習慣が形成できたか。	・80%以上の児童が、100冊または8000ページ読破の認定証をもらう。	・お勤めの本紹介、必読図書選定で読書を楽しむ環境を作り、100冊読んだ児童や8000ページ読破した児童には認定証を授与する。 ・「家読」デーを毎月実施し、家庭での親子読書を推進する。	B	・100冊認定または8000ページ読破することができた児童は60%程度で目標に届いていない。 ・お勤めの本の紹介や、高学年の児童に対して、8000頁読破認定証を目標にさせるなど工夫し、望ましい読書習慣の形成を進めた。	・次年度も100冊または8000頁読破を目標にさせ、望ましい読書習慣の形成を進めていく。 ・司書との連携を図り、朝の時間に学年ごとの貸し出し時間を設ける。
教育活動	●健康・体力づくり	子どもたちに望ましい生活習慣が形成できたか。	・毎月1日のノーテレビノーゲームデーの実施率を90%以上にする。	・ノーテレビ・ノーゲームデーを毎月実施し、基本的な生活習慣の定着を図る。実施の際には実態調査等を行って昨年以上に充実させる。 ・保健委員会による健康・体力づくりに向けた活動を行う。	A	・家庭と連携して取り組むことができた。 ・自分で計画を立て、実践することができるようになってきた。 ・90%の児童が毎月1日のノーテレビノーゲームデーを実施することができた。 ・健康タイムや健康フェスタの活動に取り組む、生活習慣の意識の高揚ができた。	・家庭の協力が難しい児童への支援の工夫が必要である。

③ 確かな学力の向上及び教職員の資質向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	基礎学力の向上を図ることができたか。	・児童アンケートにおいて、「授業の内容がわかる」の評価を90%以上にする。 ・保護者による評価において、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。	・算数における児童の実態に応じたTT、少人数指導、個別指導などを計画的に実施する。 ・行事などと関連させ書く活動を工夫し言語活動の充実を図る。 ・「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。 ・「がんばろう週間」等を計画し、家庭学習の充実を図る。	A	・児童アンケートにおいて94%の児童が、「授業の内容が、よく分かる・分かる」と答えている。 ・保護者アンケートにおいて92%の保護者が、「学校は、学力の定着・向上およびコミュニケーション能力の向上に、よく取り組んでいる・だいたい取り組んでいる」と答えている。 ・児童の課題の提出について級外との連携を図り組織的に行なった。	・家庭と連携し「家庭学習の手引き」をより活用していく方法を検討していく。 ・休業中の課題や共通課題「ドキドキプリント」の見直しを行う。 ・「がんばろう週間」などの取組を充実させ、課題提出率100%にする。
学校運営	○教職員の資質向上と組織の活性化	授業力向上の研修の充実を図ることができたか。 三部体制が確立でき教育活動が組織的に展開できたか。	・担任等全員が研究授業を実施する。 ・グループ研等でお互いの授業力を高める。 ・センター講座や他校の授業研究会等に積極的に参加する。 ・教師の同僚性の構築をめざし、教職員の自己評価の満足度合いを高める。	・校内研究の計画にそって「伝え合う活動」を取り入れた研究授業を全員がおこなう。 ・部長会を定期的に関き、取り組みの共有化と共通理解を図るとともに、各部署は部長を中心に取り組み部内専決をめざす。 ・二人二役や部内での活動を通してミドルリーダーの育成に努める。	A	・今年度の校内研究は、人権・同和教育を核にすえて全員授業や実践記録の作成をした。11月には授業実践交流会を行った。 ・部長会で取組の見直しと共有化が図れ、育成部会を中心に計画をしっかりと立て、全職員の実践ができた。 ・グループ研でお互いの授業力の高めあいや講師による模範授業、Q-Uテストの考察会などを行い教師力を高めることができた。 ・若手教員セミナーが週1回程度開催できた。	・新年度の校内研究の計画にそって、研究授業を全員がおこなう。
教育活動	●教育の質の向上にむけたICT活用教育の推進	教職員のICT活用教育のスキルアップが図れたか、また、ICTの活用による授業を始めとした効果的な教育活動が行えたか。	・週1回以上は電子黒板を活用する。 ・ICT支援員等を活用してICT活用のノウハウを向上させる。	・教育情報化推進リーダーを中心に電子黒板の使い方の研修をおこない全職員がいつでも使えるようにする。 ・ICT活用の授業の相互参観を行う。	B	・電子黒板はどの学級でもほぼ毎日活用した。ICT支援員とも連携をとって、教科のみならず全ての教育活動に効果的に活用した。	・ICT活用教育の研修を深め、授業の相互参観を行うなどして、ノウハウの共有等、効果的な活用法を検討していく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
特定課題	○小学校低学年の学習環境の改善充実	生活習慣・学習習慣の定着を図ることができたか。	・毎日朝食を取る、明るい返事ができる、正しい姿勢で学習できる、宿題を毎日提出する等の目標達成率を90%以上にする。	・「わくわく」を活用し、具体的な目標を設定し、生活習慣・学習習慣について指導する。	A	・設定した目標すべてにおいて「達成」「おおむね達成」することができた。学級便り等での保護者への啓発、宿題や道具の準備の保護者チェックが効果をあげている。 ・授業はじめの1分間黙想を取り入れることで落ち着いて学習に臨む雰囲気が高めることができた。 ・養護教諭や学校栄養職員と協力し、体と心の成長や食育の授業を行ったり、望ましい生活習慣について学んだりした。	・家庭教育のあり方や望ましい生活習慣の形成についての講演会を計画したり、保護者に呼びかける機会を増やしたりして啓発に努めていく。(講演会、土曜授業の活用、親子ふれあい活動等)

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度は、上記①～③の3つの重点目標を掲げ、学校教育目標の実現に向けた取組を全職員で共通実践してきた。その結果、保護者アンケートにおいては、学校の取り組みに対し、ほとんどの項目で90%以上の保護者が「よく取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」と答えて、保護者の満足度は高いという結果が出ている。また家庭での取り組みにおいても、子どもへよく働きかけているという結果が出ている。これは、学校の取組が保護者の理解を得て、保護者への啓発につながっていると考えられる。これらのことから、本校の学校教育目標に迫ることができたと考える。また、職員も人権・同和教育の実践交流会に向け、一丸となって研修に励み、切磋琢磨しながら教師力を高めることができた。
次年度は、生活科・総合的な学習の時間における地域と連携した教育活動を基盤に据えながら、新たな課題にむけて校内研究を実践していく。その際、全員研究授業に取り組み授業力向上を図っていく。また、「いじめ問題への対応」「読書習慣の定着」、及び「学力の向上」については、改善を加えながら取り組みを継続していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目